

ヒヤリ・ハット事例情報検索の操作方法

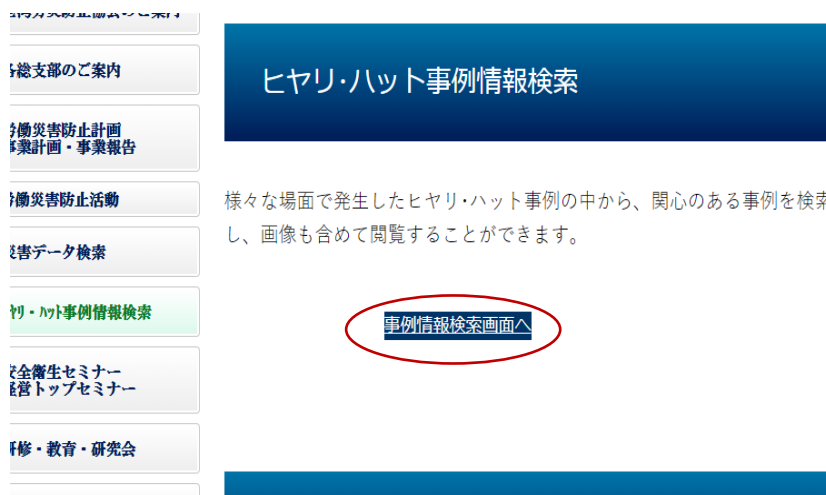
① ホームページトップ画面

「ヒヤリ・ハット事例情報検索」をクリック



② ヒヤリ・ハット事例情報検索画面

「事例情報検索画面へ」をクリック



③ 検索事項入力画面

検索したい事項を入力し「データ検索」をクリック

④ 検索一覧画面

「詳細」をクリックすると
個別の事例の内容を表示

整理番号	作業の種類	体験者の年齢	起きた場所	ヒヤリ・ハットの概要	災害となった場合に考えられる事故の型	詳細
1005	その他	50～59歳	上屋内	ヒヤリ・ハットの概要 凍結していた階段で転倒しそう	災害となった場合に考えられる事故の型 転倒	詳細
4029	その他	30～39歳	上屋内	ヒヤリ・ハットの概要 倉庫から出ようとした時ダンパーが走行してきて接触しそう	災害となった場合に考えられる事故の型 激突され はさまれ・巻き込まれ	詳細
2008	作業の種類	体験者の年齢	起きた場所 コンテナヤード	ヒヤリ・ハットの概要 コンテナの隙からトラックが飛び出し	災害となった場合に考えられる事故の型 激突され	詳細
2001	作業の種類 その他	体験者の年齢 30歳未満	起きた場所 その他の場所	ヒヤリ・ハットの概要 シートをめくる作業で転倒しそう	災害となった場合に考えられる事故の型 墜落・転落 転倒	詳細
11033	作業の種類 沿岸	体験者の年齢 50～59歳	起きた場所 本船甲板上	ヒヤリ・ハットの概要 デッキ上を通行時、雨で濡れていたためスリップしそうになった。	災害となった場合に考えられる事故の型 転倒	詳細
2006	作業の種類	体験者の年齢	起きた場所 本船甲板上	ヒヤリ・ハットの概要 コンテナ船での作業でロングバーが落下	災害となった場合に考えられる事故の型	詳細
2005	作業の種類	体験者の年齢	起きた場所 本船甲板上	ヒヤリ・ハットの概要 トレーラーに接触しそ	災害となった場合に考えられる事故の型	詳細

⑤ 事例詳細画面

ヒヤリハット事例情報 (港湾労災防止協会)

データ番号	KH06011
(作業の種類)	沿岸
(体験者の年齢)	30歳未満 (経験年数) 5～10年未満
(起きた日時)	2020年 1月 午前10時
(起きた場所)	その他
(関連する機械)	フォークリフト

【ヒヤリハットの状況・内容】
 貨物のコンテナ詰め作業でフォークリフトを誘導して置いてある貨物にぶつかりそうになった。

【再発防止対策】
 フォークリフトを誘導する際、周囲の確認を行い自分の安全を確保した状態で作業を行う。

略図・写真

※災害となった場合に考えられる事故の型(複数可)

激突 はさまれ・巻き込まれ

ヒヤリハット事例情報の活用例

ヒヤリハット事例情報の活用の一手法として、災害データベースも併せて使用し、作業現場で把握した危険（ヒヤリハット）からどのような災害が発生する可能性があるかを推察することができます。以下にこの方法により作成した参考例を掲載します。ケースはハシゴ使用時の危険についてです。

・ヒヤリハット事例

【ヒヤリハットの状況・内容】

石灰石揚げの作業で荷役状況を確認し、本船船員が設置したはしごを使って岸壁に降りようとした際、はしごから足を踏み外し海に転落しそうになった。

【再発防止対策】

はしごのステップをよく見て慌てずゆっくり降りるようにする。セーフティブロック、ライフジャケットの装着。

【災害となった場合に考えられる事故の型】

おぼれ



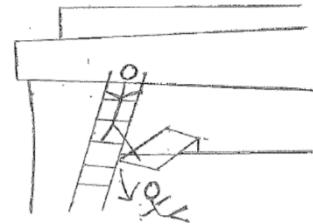
・実際に起きた災害事例

(事故の型) 墜落・転落 (起 因 物) 仮設物・建築物・構築物等

(休業見込み) 2 ヶ月 右足股関節恥骨骨折

【発生状況】

本船の荷役作業中、昼食時間の交代で作業を中断して作業場より備え付けのハシゴを使いデッキ部に降りようと左足をハシゴにかけ、右足をハシゴの横にある台にかけたところ、右足が滑って落下し右太もも部分を打撲した。
ハシゴの昇降時に 3 点支持が行われていなかった。



(事故の型) 墜落・転落 (起 因 物) 仮設物・建築物・構築物等

(休業見込み) 6 週間 右踵骨骨折

【発生状況】

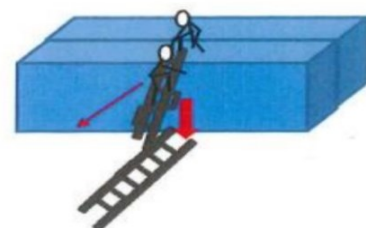
バナナの積み込まれたコンテナの揚荷役をしていて、本船所有のハシゴを使用して 1 段目のコンテナに上がろうとしたところ、ハシゴが滑り転倒しそうになり、ハシゴから離れようと約 1.5m の高さからデッキに飛び降りた際に右踵を負傷した。

【原因】

本船所有のハシゴ(3 m40cm)を使用し、上部に 30cm しか出しておらず無理な姿勢で支えていたため、ハシゴの下部が滑った時に上部で持ち堪えることができなかった。

【対策】・

- ・ハシゴを使用してコンテナに昇る際は、必ず社所有のハシゴ(4 m、接地点に滑り止め付き)を使用する。
- ・ハシゴを使用する際は、立て掛け角度 75 度や上部を 60 cm 以上出すなど安全な掛け方を再周知し徹底する。



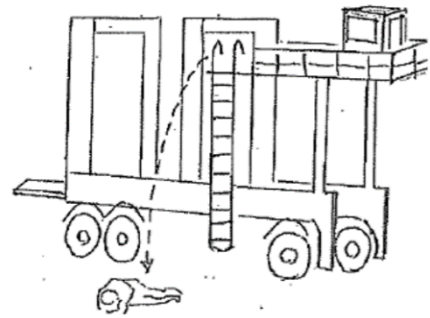
(事故の型) 墜落・転落 (起 因 物) 物上げ装置・運搬機械
(休業見込み) 6 ヶ月 骨盤骨折、腰骨破裂骨折、右足首骨折

【 発生状況 】

上屋前のコンテナ蔵置場でストラドルキャリアの始業前点検を単独で行っていた。
その後、機器に設置されている昇降用の垂直ハシゴを使用して降車する際、約 6m の高さから地面に墜落して負傷した。

【 対 策 】

昇降用のハシゴに墜落防止用のセーフティブロックの設置が有効か検討。



(事故の型) 墜落・転落 (起 因 物) 仮設物・建築物・構築物等
(休業見込み) 3 カ月 右足踵粉碎骨折

【 発生状況 】

被災者は、本船水切作業の船内雑作業に従事するため、本船中甲板上を通り、本船の縄梯子を使用し船内に降り始めたところ、縄梯子の 4 段目を踏み外し、ローホールドまで 7.9m の高さから墜落し、右足踵を強打し負傷した。

【 原 因 】

- ・船内での昇降に不安定な縄梯子を使用した。
- ・縄梯子の昇降時に 3 点以上での体の支持が徹底されていなかった。
- ・ベルブロック等の墜落防止措置を講じていなかった。

【 対 策 】

- ・船内での昇降には可能な限り不安定な縄梯子ではなくアルミ等の梯子を使用する。
- ・梯子での昇降時の 3 点以上での体の支持を徹底する。
- ・ベルブロック等の墜落防止措置を講じる。

